

コラム 相談室の窓から

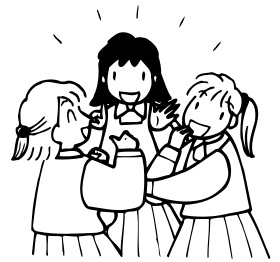
平成30年1月号

12月19日第2回フラワーアレンジメント教室を行いました。地域の外部講師の方をお招きし、13名で楽しい体験活動をしました。今回のテーマは、ずばり！「クリスマス」です。2時間かけて、こんなすてきな作品が出来上がりました。最後は、互いの作品の鑑賞会です。同じ体験を味わった者同士だからこそ、相手の良さがよくわかります。それぞれに、大切にそっと抱えながらうちにお持ち帰りしました。



我が子が非行に走っていると思ったら？

中学2年生のGさんは、中学1年生まではとてもまじめで、部活動も勉強も頑張り、リーダー的存在でした。ところが、中2の夏休みに部活を続けて休んだことを友だちに指摘され、それをきっかけに、部活動を休みがちになりました。顧問や担任とも何回も話し合い、その場では最後に「頑張ります。」と答えるものの、一向に改善しません。それどころか成績は下がる一方ですし、最近では「頭が痛い。」「お腹が痛い。」と言って早退したり欠席したりする回数が増えてきました。休日は、行き先を告げずに派手な服装で出歩くようになり、帰宅が遅くなることがあります。ケータイはパスワードがかかっている母親も見られません。もちろん、両親は厳しく叱り、お小遣いやケータイを取り上げたこともあります。一方で、きっかけは部活でのいじめだと考えているので、学校に批判的な気持ちを持っています。ついには、コンビニでお菓子を万引きして警察に通報されてしまいました。



○ あきらめない 見放さない

茶髪・異装、深夜徘徊については、やみくもに禁止したり、罰則を与え続けたりしても良い効果が得られないことが多くあります。その前に、問題の背景や、Gさんの気持ちを聞く必要があります。臨床心理学では、一般的に、異装・茶髪は、「自分のことを分かかって欲しい。」というメッセージであり、深夜徘徊は、学校や家庭で存在感を失い、自分が認められる仲間を求めている行動と理解することが常識です。

Gさんの場合は、まだ非行傾向が深刻ではありません。対応によっては十分に正常な

学校生活に戻ってこられます。GさんのSOSサインだと理解し、家庭と学校の双方が「あきらめない。見放さない。」を合言葉にすることがなによりも肝心です。

○ Iメッセージを発信しましょう

「YOUメッセージ」と「Iメッセージ」という言葉をご存じでしょうか？

「YOUメッセージ」とは、「あなたは○○だね」と、相手を主語にして観察したことや感じたことを伝えるメッセージです。例えば、「あなたはよく頑張ったね。」というような言い方です。「YOUメッセージ」は、発信する側の主観（評価）で言っているので、本人の本当の思いとはずれてしまうときがあります。

これに対して「Iメッセージ」は、発信する人の「私（I）」が主語になって発せられるメッセージを指します。例えば、「私はあなたが頑張っているのですごくうれしいです。」というような言い方です。「Iメッセージ」は発信する人の素直な気持ちを伝える言い方です。相手を「評価」するニュアンスが含まれていないので相手にとって受け取りやすい伝え方になっています。

Gさんに向かってついつい言ってしまいがちな「（おまえは）こんな遅い時間まで一体何をしていたの！」という言葉は、「YOUメッセージ」であって、「おまえが悪い！」という非難のニュアンスを言外が含んでいます。

それを「Iメッセージ」で言い換えると、「私は、あなたに何かあったんじゃないかとずっと心配していたんだよ。」となります。非難が含まれておらず「心配だった」という話者の素直な気持ちが表れます。我が子が非行に走りそうになっているとき、そんな悠長なことは言っていられないと思うかも知れませんが、我が子を心配する気持ち＝愛する気持ちを素直にオープンにしてみせることがGさんを救うのです。

「万引きは親の愛を盗む」と言います。

○ 学校と心を揃えて 「あなたがたいせつ」 でも 「ダメなことはダメ」

でも、万引きは犯罪行為です。

受容と許容は違います。非行に走りそうなGさんの気持ちを受容することはきわめて重要ですが、行動を許容してはいけません。「ダメなことはダメ。」という毅然とした面と、Gさんの気持ちや感情を受け止める面と両面を必要とするのです。

温かい厳しさ。それがGさんの求めている愛情の本質です。

元々のきっかけは部活動での人間関係のつまづきだったのだからこそ、学校とよく話し合い、Gさんの居場所作りや新しい人間関係を築く支援をしましょう。

本来はまじめで頑張り屋さんのGさんです。周囲の大人の見守りが適切にあれば、自分自身の力で挫折を乗り越えていけるはずです。

だれよりも親がそのことを信じましょう。